

# 明治記念大磯邸園整備状況報告「工事見学会」を実施しました

町では、国土交通省関東地方整備局及び神奈川県と連携し、「明治150年」関連施策の一環として、明治期の立憲や憩いと交流の拠点となる場を創出するため、滄浪閣（旧伊藤博文別邸跡・旧李王家別邸）等を中心とする建物群及令和2年の第一期開園後、令和3年・4年に町区域を追加開園し、現在は令和7年度の全面開園に向け、工事が進め

政治の確立等に関する歴史と意義を後世に伝えるとともに、文化の発信及び緑地について、明治記念大磯邸園として整備する事業を進めています。られています。今回は、2月23日に行われた見学会の様子をお知らせします。



## 旧滄浪閣（伊藤博文邸跡・旧李王家邸）



「滄浪閣」は伊藤博文が明治29年に大磯に建てた別邸を翌年本邸とした邸宅の呼称です。伊藤の没後は李王家に譲渡され、別邸として使用されていました。

現存する邸宅は、大正15年に建て直されたものであり、旧滄浪閣は民間施設として多くの増改築が行われていたため、まずはその部分の撤去を進め、文化財としての価値を特に有する李王家時代の和室棟・洋室棟は保存改修を行っています。また、長期間未使用だったため、設備を含めた施設全体の老朽化が著しく、屋根葺材の破損等による雨漏れの被害は大きく大規模改修が必要な状態でした。当時の姿に復元をしていくためには、撤去しないとわからない部分が非常に多く、復元方法を検討しながら、一つひとつ作業を進めている状況です。修復後は、邸宅の歴史等の展示スペースや講演会等のイベント空間として、公開・活用する予定です。



## 西園寺公望別邸跡・旧池田成彬邸

西園寺公望は伊藤博文の紹介で明治32年に大磯に別邸を所有しました。現在は西園寺から邸宅を譲り受けた池田成彬により昭和7年に建築され、4つの邸宅の中でも唯一の鉄筋コンクリート造の洋館建築が残されています。

現在はその昭和7年に建てられた洋館を復元する工事を行っています。

釉薬仕上げの屋根瓦は、大半が建築当初のものであり、一度すべて取り外し、うまく使用できるものは再利用し、当時の姿に復元をしていく予定です。

修復後は、邸宅の歴史等の展示スペースや飲食等ができる空間として、公開・活用する予定です。



## 交流広場・大磯こゆるぎ緑地

交流広場はイベントに対応した芝生エリアとし、キッチン造を取り入れ、園路沿いには修景のため、季節の草花を植海側の大磯こゆるぎ緑地は松林の保全ゾーンとして、白砂備・保全し、枯れている枯死木を中心に間伐し必要に応じて

### 明治記念大磯邸園 完成予想図



カーの利用もできるような構え、彩の演出なども行います。青松をイメージした松林を整松の補植を行っています。



## 陸奥宗光別邸跡・旧古河別邸



陸奥宗光が明治29年に病氣療養のため大磯に建築した邸宅です。現存する邸宅は、当初の建物が大正12年の関東大震災により大破したため、昭和5年に建て替えられたものです。倉庫等一部改変範囲は保全改修、母屋の外観や居間・次の間等は保存改修を行っています。

すべて新しくしてしまうのではなく、使えるところ使えないところを確認して、それぞれにあった形で新しい部材をつなぎ合わせ修繕を手作業で行っています。元の部材をできるだけ活かしていくことで文化財としての価値を維持しています。

修復後は、邸宅・庭園の歴史等の展示スペースとして、公開・活用する予定です。

また、邸宅だけではなく建物周辺の景観木や植栽等も良好に管理し、庭園全体の修復・再生を行っています。



## 旧大隈重信別邸・旧古河別邸



大隈重信が明治30年に大磯に別邸として購入し、増改築した邸宅です。大広間棟の増改築が入り混じる部分は現状の意匠を維持しつつ改修し、大隈時代のものと思われる神代の間等は保存改修を行っています。

建造物を壊すことなく耐震補強工事や、柱・土台等の取替え等の補強工事を行うため、邸宅全体を約1.5m持ち上げる「あげや工事」を行っています。

邸宅を持ち上げるために、敷居から上に補強用の骨組を設置し、邸宅のすべての柱と括りつけた後に、補強用の鉄骨を油圧ジャッキで押し上げます。1回分で押し上げることができる高さは15cmほどで、時間は約20～30分程度かかります。1回持ち上げごとに、ジャッキの下に枕木を組んで邸宅全体を支えて耐震補強工事を実施しました。

また、土壁は元々あった壁を手作業で撤去し、その材料を新しい材料と混ぜて、新しい壁を作りなおす作業を進めています。

修復後は、邸宅・庭園の歴史等の展示スペースとして、公開・活用する予定です。

